

第 1 回 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会 議事概要

開催日時	令和 3 年 6 月 22 日（火） 15 時 00 分～17 時 30 分
開催場所	大阪狭山市役所 3F 第一会議室
出席者	上甫木委員、久委員、金谷委員、山口委員、吾妻委員、菊屋委員、中嶋委員、 疋田委員、松本委員、宮下委員、秋元委員、芝辻委員、寫岡委員、三崎委員、 （藤原委員：途中退席）
欠席者	
事務局	田中副市長、堀井副市長、政策推進部長、総務部長、健康福祉部長、市民生活部長、都市整備部長、教育部長、政策推進部理事、政策推進部企画 G 課長、 企画 G 参事、企画 G 主査、会計年度任用職員
傍聴者	3 名
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 委員紹介 2. 市長挨拶 3. 会長、副会長選出 4. 会長、副会長、ご挨拶 5. 堀井副市長「今後の議論に向けて」 6. これまでの取組み（主に指針）に関する資料説明 7. 令和 3 年度、狭山ニュータウン地区活性化指針による主な取組み 8. これまでの取組み（主に指針）に関する質疑 9. これからの取組み（主に試案）に関する資料説明 10. 本日の論点等に係る意見交換 11. 本日のまとめ 12. 田中副市長閉会挨拶
資料	資料 1 大阪狭山市狭山ニュータウン地区再生連絡協議会規則、委員名簿 資料 2 狭山ニュータウン地区活性化指針の概要 資料 3 狭山ニュータウン地区活性化指針 大阪狭山市の取組状況一覧 資料 4 狭山ニュータウン地区の未来を育むプロジェクト推進会議の取組内容 資料 5 狭山ニュータウン地区再生推進計画（試案） 資料 6 狭山ニュータウン地区再生連絡協議会における検討の進め方（案） 資料 7 狭山ニュータウン地区活性化指針（平成 31 年 3 月）

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
事務局 市 長	<p>1. 委員紹介</p> <p>2. 市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長の古川からご挨拶申し上げます。 ・ご多忙のところ、ご出席をいただき感謝申し上げます。 ・近畿大学並びに大学附属病院の移転の報道を契機に、2年前には狭山ニュータウン地区活性化指針を策定して取組みを進めているところである。 ・令和2年度の国勢調査の速報値の発表があり、大阪狭山市の人口は5万8,486人、平成27年と比較すると694人の増加という結果。大阪府内で人口増となった市町村は10市2町で、大和川以南のエリアでは大阪狭山市と田尻町のみである。 ・また（人口動態保健所・市町村別統計による）合計特殊出生率は、この5年間で上昇幅の高かった市町村が発表され、大阪狭山市は関西の市町村で第10位の0.26の上昇幅だった。 ・このような流れの中、当協議会では、狭山ニュータウン地区活性化指針に基づく、実施計画の検討と、その進行管理をお願いしたい。 ・地域の活性化には行政、住民、事業者、そして各種団体の皆さまの連携を欠かすことはできない。 ・皆さんが、それぞれ連携し、つながっていくことで大きな輪、大きなコミュニティをつくっていくことが大事だ。 ・本日発足した当協議会では、各事業者と行政、あるいは各事業者と地域で活動している皆さまとの連携、いわゆる「つながる」や「つなげる」というところに重点を置いてご議論をお願いしたい。
事務局	<p>3. 会長、副会長選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会規則第4条の規定により、委員の互選により会長・副会長を定めることになっている。 （事務局一任の声） ・事務局案では会長に上甫木昭春委員、副会長に久隆浩委員と考えているが、いかがか。 （異議なしの声） ・そのようにさせていただく。会長、副会長から挨拶をいただきたい。
会 長	<p>4. 会長、副会長、ご挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この再生連絡協議会は、2年前に作った計画をいかに推進していくかについて知恵を絞りながらやっていきたい。ニュータウンでの取組み成果

副会長	<p>は全市的にもつながっていくという非常に大事な試金石になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪狭山市とは、もう十数年前に協働とか市民活動支援という立場でお付き合いがある。もともとは都市計画が専門であるが、最近では、地元で市民の方々と、ずっと一緒にまちづくりを頑張っている。 ・地域活性化という言葉を使うが、まちだけが元気になるわけがなく、その地域の方々が生き生きと暮らす、それが集まってまちが元気になっていく。
事務局 堀井副市長	<p>5. 堀井副市長「今後の議論に向けて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副市長の堀井から今後の議論に向けて一言申し上げる。 ・本日は参集いただき感謝する。 ・私は、大野地区で昭和 36 年に生まれた。40 年代に入り今熊と大野の間の山々が造成されて狭山ニュータウンに生まれ変わった。 ・狭山ニュータウンができて、大野地区と周辺の地域は生活の利便性が非常に高まった。 ・狭山ニュータウン開発が狭山町から大阪狭山市への発展の原動力になった。 ・狭山ニュータウンは年月が経っているが、非常に優れたストックだと思っている。それを修理して原状回復するということより、その性能や価値を高めるリノベーションが必要だと思う。 ・まちづくりは演劇、舞台芸術に近い。キャストは市民、市民団体、行政、時に事業者。舞台を支える装置が商店街や事業所、公共施設、インフラ、交通機関などである。 ・行政の役割は非常に広い。舞台装置をプロデュースしながらキャストとして舞台に立つ、プレイングマネージャーである。 ・今回の再生推進計画試案に置き換えると、キャストのパフォーマンスを高める舞台装置としては例えば公園の活用などが、見応えのある舞台に必要な大道具としては例えばにぎわいのある商業ゾーン・サービスゾーンの形成や府営住宅の集約事業の活用が思い浮かぶ。 ・委員の皆様は、それぞれの立場でまちづくりに携わって来られており、その経験や想いを各主体の連携により、若い現役世代が活躍しやすい仕組みや舞台装置として、再生推進計画の策定と進行管理を通じて、形にしていきたいと考えています。 ・本日は、忌憚のないご議論、ご意見をお願いします。 <p>事務局 会 長 事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このあとの会議進行は会長に議長をお願いします。 ・委員の出席状況の報告を求める。 ・委員総数 15 名中、本日ご出席委員は、15 名（途中退席 1 名）。協議会規則の第 5 条第 2 項の規定により、協議会の成立を報告する。 ・本協議会の公開の件について、次回以降も公開としていきたいが、いか

<p>会 長</p>	<p>がか。 (異議なしの声) ・それでは、次回からも公開とする。</p>
<p>事務局</p>	<p>6. これまでの取組み（主に指針）に関する資料説明 ・資料説明</p>
<p>事務局</p>	<p>7. 令和3年度、狭山ニュータウン地区活性化指針による主な取組み ①政策推進部、②都市整備部、③健康福祉部、④市民生活部、⑤教育部</p>
<p>会 長 委 員 委 員</p>	<p>8. これまでの取組み（主に指針）に関する質疑 ・何かご質問等があればお願いしたい。 ・いろいろとやっていただいているが、市民の方たちは実感としてまだまだ感じられてない。実感として感じられるものが出てない。もっと日常生活のものでアピールできるものを優先的にやっていただければ、実感が味わってもらえるのではないか。 ・指針の中でも繰り返し言われたことが、市民として自分ごととしていかに進めていくかというところに重きを置いて、行政は行政でやっていただく、われわれとしても自分ごととしてやっていく、そういう推進会議をつくって今までやってきた。ただ、担い手の確保が大きな課題である。 ・地域は地域で皆さん頑張っている。ニュータウンの再生を進めるに当たっても、市民の担い手の育成なり確保、コミュニティの活性化が非常に大きな問題になってくると思うので、なにかやってくれているという感じを持つ必要がある。市民の側で行おうとしているものについても継続的に行っていて、それが目に付くようになって初めて手伝っていこうというように、長期的なスパンで取り組んでいく必要もある。</p>
<p>会 長</p>	<p>・市民側からこれまでのこの2年間の取組みを評価していただいたと思う。課題と評価を少し加えていくと、この協議会での議論にもつながっていくと思うので、今後の課題として事務局のほうで検討願いたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>9. これからの取組み（主に試案）に関する資料説明 ①再生推進計画（試案）、②検討の進め方 ・今日の主な論点の1つは、これからニュータウン再生の基本的な進め方について、市・住民・事業者との連携・役割分担、それから自治会や地域活動団体の担い手の育成ということを中心に議論するということである。その中で、市・住民・事業者がすべて関わる重点事業を中心に議論したいという問い掛けである。 ・2つ目は、再生推進計画の構成、考え方について。最後は地区再生の戦略として①から④まで書いてあるが、その戦略を各重点事業について考</p>

	<p>えていきたいと思いますという問い掛けである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後の進め方について皆さまからご意見いただきたい。
委員	<p>10. 本日の論点に係る意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> 指針を具体化させることは非常に大事なことである。いつ誰がどこで何をというのを見える化してこそ実現への確固たる形になると思う。 「再生」は衰えたものが生き返ることと認識しているが、ニュータウンはそこまで衰えていないと思う。しかし、近畿大学がいなくなる段階で生き返らせなければいけないというような事態が起こるといことも懸念される。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 近畿大学のことは重点項目になっていないことに対して違和感を覚える。ニュータウンがどうなるか、近畿大学の跡地がどうなるか、本当に病院ができるのかは住民にとって大きな関心事だ。住民が一番不安に思っていることに対して明確な方針が出せていないということ。住民の力を期待することはなかなか難しい。近畿大学の跡地に本当に病院ができるのかに対して連絡協議会としての意思表示が必要ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 跡地の問題という中で、大野台保育園の跡地に関して何も出てこない。自治会内でもあの跡地がどうなるかということがまったく示されない。大野台保育園の跡地をどうするのかは市独自で、対応できる中で、なぜこれが再生推進計画に入っていないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ニュータウン再生推進計画とは別の個別の計画等がある場合はそちらのほうに委ねてさせていただいている。大野台保育園跡地の活用についても別の計画で議論した内容を適宜こちらに情報提供し、再生推進計画に盛り込むこととしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料5の7ページに、各取組みについて、下記役割分担を基本として公民連携で推進するという中身になっている。特に住民等のところは、担い手が不足して大きな課題があるということが表に一切出てこない。自治会も頑張っているし、地区長会も啓発活動を行っているし、行政は行政で意識はしているとは思いますが、具体的な話というのはどこにも出てこない。 この中で、具体的に活性化をどうしたらいいのか、行政としてどう取り組むのかを頭出しできないか。 1ページの目的のところも、地域コミュニティの弱体化を入れて、問題点はこういうことがあるということを顕在化させておいた方がいい。 もうすべての施策に絡んできている、ベースのところでは絡んでくると思うので、何が行政としてできるかというのを具体的に書くべきではないか。そうしないといつまで経っても先送りになってしまって、将来、目も当てられないようなことになるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 8ページをご覧ください。一番上に地域包括ケアシステムの構築が

<p>委員 会長 副会長</p>	<p>ある。当然これは非常に大事で、重要な事業だが、地域包括ケアシステムの構築については継続的取組み段階のままで、昨年7月にサテライトが開設したとの記載はあるが、令和10年までビジョンはないのか。非常に大事な事業で、寂しいと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会が地域包括支援センター（ニュータウンサテライト）も運営させていただいている。高齢者の総合相談をさせていただいており、非常に地域の中では頼りにされている。地域包括支援センターとして大きな拠点になるように、発展していくべきだろうと思う。これから重ねる議論の間で、この点について皆さんと一緒に深めていきたい。 ・ 15名の委員がいるが、女性は2人だけである。こういうまちづくりをしたいという思いは女性の視点も大いに必要だと思う。 ・ これからの議論の枠組みに関して何かあるか。 ・ 現状の再生推進計画（試案）では不十分である。もっとアピールしていかないと、人には届いていかない。さらにステップアップするためには3つの視点がある。 ・ 1つは、魅力的な暮らし方をされている人をクローズアップして表に出してPRできないかという点。徳島県の神山町にはかなり移住者が集まっている。NPO法人グリーンバレーの前理事長がいつもおっしゃっているのは、他の地域ではどんな空き物件があるのかという物件情報しか出していないが、神山町はこんな暮らし方をしている人がいるということをアピールすることで、家を探して移住しようかという話になる。 ・ どういう形で若い方が入ってくださるかということを考えたときに、魅力的なものを出していかないといけない。 ・ その1つが、リノベーションして素敵な暮らし方をしている人がいることを示すことである。生駒市では、「グッドサイクルいこま」というホームページを作って、そこに人の顔が見える、暮らし方が見える紹介をしている。担い手がなかなか見つからないという話があったが、「公園にいこえん」という取組みは1人の子育てママさんが立ち上がって、どんどん輪が広がっている。この狭山ニュータウンに来たら自分のやりたいことがやらせてもらえるというポジティブな方がどんどん増えていけば、地域活動もより活発化する。そういうPRの仕方である。うまいPR戦略、それをなにか出してほしい。 ・ 2つ目は、メディアにどれだけ露出するか。そのためには先進的な取り組みかどうかが重要だ。今日の話はどこかでやっていそうな話ばかりだった。アピール力のあるものをもっと取り入れてはいかがか。 ・ 3点目は、大きく動く土地、ここをいかに魅力的にするか、有効活用していくかという観点。 ・ 付け加えると、若い方々にとって魅力的にするためには、教育環境が重要である。先進的な教育がこの地域で受けられることになれば、引っ越
--------------------------	---

委員	<p>してまでこの狭山ニュータウンで子育てしたいという人たちが現れるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> • もっとインパクトのあるプロジェクトに磨き上げてはどうか。同じことを言っても、どういう内容にするのか、どういうインパクトあるアピールをするのかでかなり見え方は変わってくる。そこはかなり工夫をお願いしたい。 • こういう会議には初めて参加させてもらって、非常にレベルの高い話をされていると思う。われわれ事業者にとっても近畿大学病院の移転は本当に死活問題である。 • 市がいろいろ施策を打っておられるが、本当に住民さんが熱を持って行動しないと、PR はなかなか難しい。自分たちも何かお手伝いできればと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 近畿大学病院の関係が重点事業ではない点を説明させていただきたい。近畿大学病院も帝塚山学院大学も公共交通も別途協議の場で検討している。 • 近畿大学病院の後継病院の確保や跡地全体の活用については、本市の方で住民のご意向は十二分に真摯に受け止めており、近畿大学病院とともに、大阪府も交えた三者協議の場等を活用しながら決めたことをこの場でご報告させていただきたい。今年度は、後継病院確保のスケジュール感のようなものを報告できればと考えているので、当協議会での意思表示ということではなくて、別途協議の場の方に一定らせていただきたいと思います。
会長	<ul style="list-style-type: none"> • 行政と近畿大学とは調整されている。この連絡協議会で意思表示をするというのではなくて、大きな土地の使い方のアイデア出しをさせていただいて、そのアイデアをお使いいただくことができないのか。
事務局 会長	<ul style="list-style-type: none"> • いろんなアイデアを近畿大学と協議しながら進めていきたい。 • 一定、行政の方もそれを受け止めていただきたい。重点事業についても、柔軟な方向で考えていったらどうかと思う。
副会長	<ul style="list-style-type: none"> • 近畿大学と市との協議には、去年辺りから私も入って議論を繰り返している。 • 近畿大学には、市のため、市民の皆さんのためという視点があり、どこでもいいから売るというわけではない。その辺りの折り合い線を模索しているところだ。今の規模の病院を残すことはできないが、近畿大学病院を補完するような別の形の病院は誘致するというところまでは進んでいる。 • 残りの土地をどうするかということも、いわゆるデベロッパーがあそこを仮に使えるとしたらどういう使い方ができるかということで、数社に話を聞いている。 • その中では、ショッピングモールなどの大きな集客施設はあの土地では

	<p>無理だろうという、正直なご意見もいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どのような使い方なら可能性があるのか、については、試案の19ページで示されたものが可能性としてはあるのではないかということ。ただ、これは近畿大学の土地なので、近畿大学がこういう扱い方をするデベロッパーにお渡しするかというところは、現時点では不明である。2回目以降の連絡協議会の場でも示せる部分はどんどん情報提供していけばよいと思う。
<p>会 長</p> <p>事務局</p>	<p>1 1. 本日のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きく4つの枠組みで、4つの戦略でという、この基本的な方向はこういう方向で進めるということで、お考えいただきたい。 ・ 前半に言ったように、実行されてきたものについての課題の整理や本当に市民がどのように参画しているのかを整理して進めていただきたい。 ・ PRが必要であることや他にない事例をめざさないといけないということで、委員以外の関係者をお招きして意見を聞くということも大変いい話である。この辺りを事務局で選定いただいて結構かと思うので、ご了解を得ていただきたい。 ・ 次回、第2回は7月20日火曜日午後2時から本日より同じ会場で開催する。最後に副市長の田中から、閉会に当たりお礼のご挨拶を申し上げます。
<p>田中副市長</p>	<p>1 2. 田中副市長 閉会挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 狭山ニュータウンの活性化・再生に向け、忌憚のないご議論をいただき感謝申し上げます。本日いろいろなご意見をいただき事務局としてしっかり受け止めて、論点整理をして円滑に議論が進展されるよう努めてまいります。 ・ 今年度の再生推進計画の策定とその更新及び進行管理を通して狭山ニュータウン地区の再生・活性化を着実に進めてまいりたいので、少し長い視点から継続的なご参画をお願いしたい。本日は長時間にわたり、ご意見をいただき、誠に感謝申し上げます。
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以上で第1回狭山ニュータウン地区再生連絡協議会を閉会する。 (終了)